

(様式1)

令和2年度 目標達成計画

園所名 三木市立別所認定こども園

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

教育・保育目標 「心も体も元気な子」「友達を大切にするやさしい子」「よく聞き、よく考え自分の思いがはっきり言える子」

【目標達成計画】

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	・新型コロナウイルス感染症予防対策について	・子どもたちが新型コロナウイルス感染症について知ることができるようしよう。 ○新型コロナウイルス感染症予防のために、環境構成の工夫をし、保護者への啓蒙を丁寧に行おう。	・午睡時の工夫（パーテーションの利用）、頭を互い違いにして寝る。 ・個人用マスクケースにマスクを保管 ・ステイホーム時の遊びグッズ配布・制作、面談、給食時などに手作りパーテーションを使用 ・ソーシャルディスタンスの可視化 ○啓発ポスターの掲示 ○感染症防止のための手紙配布 ○健康観察表の実施 ○様々な行事での感染症予防の実践 ○ホームページに実践を掲載 ○園の掲示板に実践を掲示 ○登降園タブレット使用時などに消毒 など	・子どもたちは順応性が高く、スムーズに新型コロナウイルス感染症対策が定着してきている。 ・手洗いは、歌を歌いながら丁寧に、習慣となった。 ・食事中もなぜしゃべらずに食べるのが大切なのか、わかって行動できるようになってきた。 ・マスクの着用が大切なことはもちろんだが、マスクが汚れた時の始末の仕方などにも意識ができるようになってきた。 ・保護者の方は、新型コロナウイルス感染症対策に意識が高まり、協力的である。	・「新型コロナウイルス感染症関係」の書類や、保育の具体的な取り組み内容を一括でファイリングし、「新型コロナウイルス感染症フローチャート」を作成し、職員が共通理解して統一した対策がとれるように取り組んでいる。ペーパータオル・ゴミ箱の設置、自動開閉トイレ、「ゼロ換気・ゼロ消毒」実施等、感染予防策を実施している。 ・可視化等子どもが理解しやすい工夫を取り入れ、子どもがストレスなく感染症予防ができるよう取り組んでいる。歯磨き・手洗い場の立ち位置に足型シールを貼る、手作りのパーテーションの使用、手作りのマスク保管ケースの配布、歌いながら丁寧に手洗いの習慣をつける等の取り組みがある。 ・啓発ポスターの掲示、園だよりへの毎月の掲載、ホームページの更新等により、コロナ関連の情報や園の取り組みを保護者に伝える機会を頻回に設け、共通理解と意識が持てるように取り組んでいる。自粛期間中には、職員が手作りした遊びグッズのキット(ふくわらい・輪投げ工作)やマスクを各家庭に配布し、協力関係が築けるよう取組んだ。毎日の健康観察表の記載、登降園児のマスク着用、手指消毒、保育参観での感染症予防対策等、保護者の協力が得られている。
良いとこ自慢！	(保育内容面) ・個々の子どもたちの発達や生活環境、成育歴をふまえて、教育・保育しようと努力している。	・0、1、2歳児の発達にあった環境構成の足跡を残そう。 ・3、4、5歳児は、保育内容の充実のための環境構成の足跡を残そう。	・環境構成 Before After を定期的に作成中	・環境構成 Before After を作成したこと、環境構成の評価、反省がしやすくなった。 ・全職員が他のクラスの環境構成の工夫を見ることができ、学びの共有や次への課題が明確になった。	・戸外で異年齢が混じり合って遊びを展開したり、年齢を超えた関わりを持ちながら活動を進めたりすることで、人と関わる力を育てるように努力されている。そのための環境を整えるよう、職員間で相談しながら進められており、その成果がみられる。
	(管理・運営面) ・研修会のもち方の工夫を行っている。	・コロナウイルス感染症対策もかねて、今までにない研修会のもち方を探してみよう。	・職員が推薦する本「あたり前を見直したら保育はもっと良くなる」「ことばかけの工夫」「えんまさま、ほとけさまシリーズ本」など、を職員が読み、感想を記入、その後回覧 ・兵庫県の人権啓発DVDの視聴、その後感想記入、回覧 ・自分が保育にのぞむ時に大切にしていることのキャッチコピーを記入、その後回覧 など	・従来の形式にとらわれず、多様な研修の仕方ができるようになった。 ・研修会は、このようにするものという固定概念がなくなり、柔軟にいつでもどこでも誰でも研修ができる方法を工夫することができ、考え方が柔軟になった。	・「令和2年度職員研修計画・実施報告書」（計画・実績一覧表）」を策定している。今年度、研修機会の確保が困難な中で、様々な手法による研修を工夫し実施している。 ・書籍研修：職員一人ひとりが推奨書籍を読んで研修報告書を作成し職員間で共有することで、互いに学び合い、新しい視点に気づける取り組みとなっている。 ・外部講師による公開保育：3、4、5歳児共通の「戸外遊び指導案」を作成し、意見を出し合い、園庭での遊びのルールを共通理解したうえで園内研修(公開保育)を行い、外部講師に指導助言を受ける機会を設けた。園庭の使い方を具体的に見直したり、遊び場を幼児と乳児に分け異年齢の交流ができるようになり、保育の質の向上につながる取り組みとなっている。 ・キャッチコピー研修：「保育で心がけていること・大切にしていること」をテーマに、職員一人ひとりがキャッチコピーを考え、職員間で共有することで、互いの意識が高まる取り組みを行った。 ・今後も、DVD研修やリモート研修を活用し、研修機会の確保に努める計画がある。
ここを改善！	(保育内容面) ・各クラスでは個々のねらいを共有できているが、園全体としてはできていない。	・園全体で個々のねらいを共有しよう。	・園全体でつくろう！戸外遊び指導案 ・個人にスポットを当て、みんなで今日は○○さんを理解しよう！（ポストイットを利用して） ・個人支援案の作成、ケース会議など	・シートを作って「見える化」をしたことで、全職員で一人の子どもを観察することができた。その中で、多様な内面理解の仕方があることや多面的な見方ができることが明確になり、一人で子どもを見ている時に比べて、広く深く子どもを理解しようとする気持ちになった。 ・他の先生方の見方を知ることで、子どもの良さが多く見られ、より保育に前向きになることができた。	・さまざまな個性を持った子どもたちが、安心して自己発揮できるように心がけられている。また、保護者との連携を通して周囲の大人がその子を理解し、適切な保育を受けられるように努力されている。集団に馴染まなかったり、切り替えが難しかったりした子どもたちが、落ち着いて園生活ができるようになってきている。 ・子どもたちの興味関心をもとに、円滑に活動を進めるための工夫がなされている。そこで自信をつけながら集団の一員としての自覚が芽生えるように、長期的視点に立って保育が組み立てられている。年齢が上がるにつれて考えられる力がついてくると、他者の存在を意識しながら活動したり生活したりするように導かれ、就学に向けて充実した日々を送れるようになってきている。
	(管理・運営面) ・職員会が充実していない、形骸化、計画性がないなど、時間の使い方に工夫が必要	・職員会の内容充実・精選、時間短縮を行うことで、職員が保育準備のための時間を確保できるようにする。	・職員会の回数を減らし、書面伝達を増やした。その時に、各自の机を増やしたり、各自のボックスを作ったりして環境を整えた。 ・特に大切な事案のみ、職員会2回交代方式にし、その日のうちにタイムリーに全員に伝達する。 ・次の職員会についての事案をあらかじめ伝達しておく、各自、各学年で話し合いを行っておく。 ・今日は伝達のみの日と話し合いが必要な日を分けて行う。 ・その他、ホワイトボードなどでの情報共有を行った。	・時間の使い方が以前より自分たちのペースで行えるようになり、教材研究、保育準備の時間の確保ができ始めた。 ・課題としては、職員会についてはコロナ対策もあり、回数を減らしたことで書面を読むことが多くなったので、周知できているか、数回確認する必要がある。	・職員会議の議題や資料を事前に配布し、個人やクラスで内容を検討・理解したうえで、月2回(1日に2交代制で全員参加)実施することで、話し合いや情報共有がスムーズに効率よく行えるようになった。 ・机の増設・個人ボックスの設置により、必要な情報が全職員にタイムリーに届くようになり、確実な情報共有・業務改善や効率化につながっている。また、職員限定の無料通信アプリやホワイトボードを活用し、短時間で情報共有できる仕組みを作っている。 ・時間の有効活用についての職員の意識が高まり、記録・日誌・連絡帳記入等の時間を確保できつつある。